



冬だけじゃない！春先までの子牛のケア

今年の冬は「暖冬」と言われていますが、気温の日内変動は大きく、三寒四温の季節柄、日間変動も大きくなります。子牛は温度変化に敏感で、秋口から春先にかけては病気になるしやすい季節です。牛舎をシートで囲うなど寒さ対策は万全だと思いますが、牛舎内は空気の入換えをしていないと、ウイルス、埃、アンモニアの逃げ場がなく、特に子牛は呼吸器病などにかかりやすくなります。そこで、春先までは続けてほしい対策を紹介します。

●敷料は乾いていますか？

体の小さい子牛は体が濡れることで体温が奪われやすく、エネルギーの損耗につながり、発育にも影響が出ます。子牛の寝床となるスペースの敷料はできるだけ乾いた状態にしましょう。

●隙間風は入っていませんか？

隙間風が子牛に当たると体温が奪われ、寒冷ストレスを感じます。

隙間風が入らないように隙間を埋めたり、風の当たらないスペースを確保しましょう。

●換気をしましょう！

糞尿に含まれるアンモニアにより、呼吸器病が出やすくなります。

天気のよい日の日中に、短時間でもいいので換気をしましょう。

■ ネックウォーマー



「首」を暖めることで、体の防御能が高まることが知られています。安価な人用のフリース地マフラー、レジャーシートを活用するのもお勧めです！
下痢も早く治癒するらしいですよ！

■ カウジャケット

小さく生まれた子牛や病気になってしまった場合にお勧めです。
使わなくなった毛布等で手作りすることもできます。



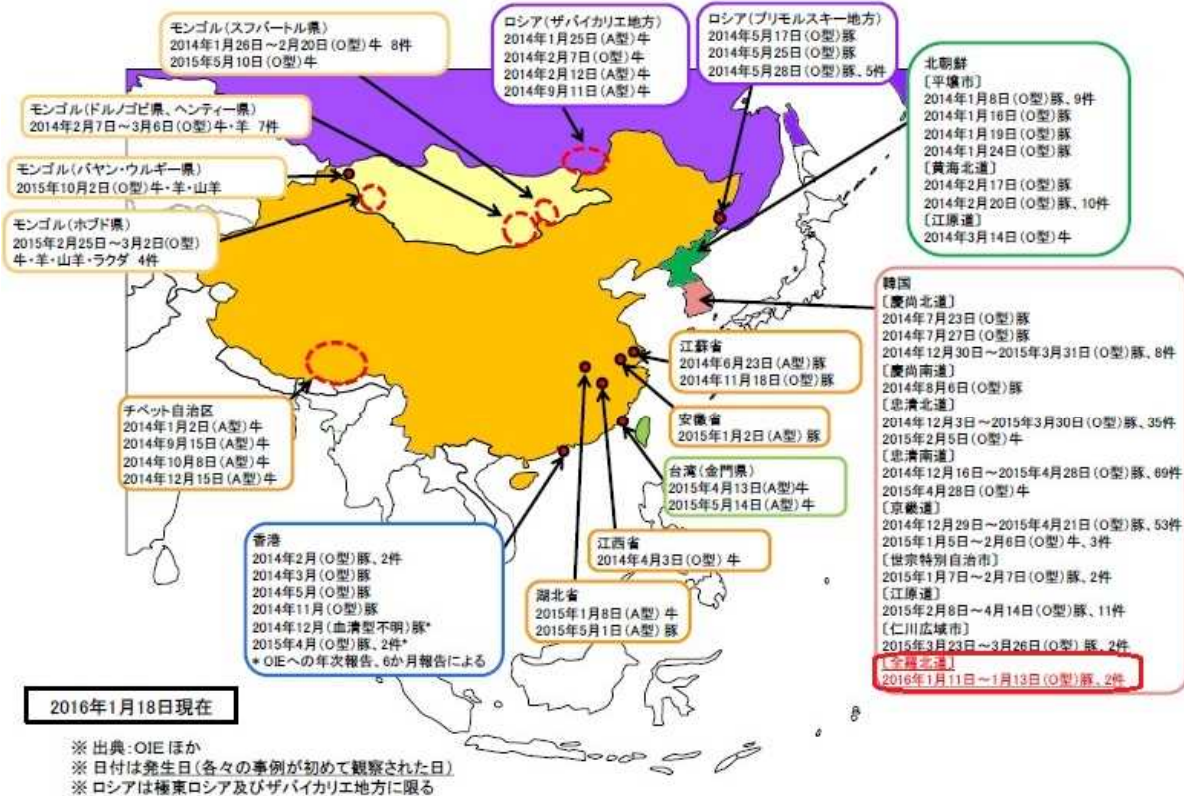
<子牛の育成は『母牛のおなかの中』から始まっています！>

母牛への『増し飼い』をしましょう。

分娩前2ヶ月頃から胎子は急激に大きくなり、この時期にしっかり食い込ませることで、体の大きい免疫能力の高い子牛を生ませることができます。

口蹄疫が近隣諸国で発生しています！

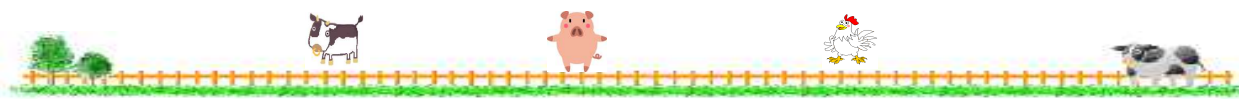
中国、香港、台湾、韓国、北朝鮮、モンゴル、ロシアにおける口蹄疫の発生状況（2014年1月以降の発生）



韓国では、2014年7月に3年3か月ぶりに口蹄疫の発生が確認されて以降、発生が拡大しています。今年に入ってから2件の発生（豚、上図の赤字部分）が報告されていること、また他の東アジア諸国でも発生が続いていることから、日本国内へ侵入する可能性は極めて高い状況が続いています。

発生予防の徹底をお願いします！

- 農場の出入口に看板を設置するなどにより、農場内へ不要・不急な者を立ち入らせることのないよう、関係者以外の立入を制限しましょう。
- 農場に持ち込む物品や出入りする車両の消毒を徹底しましょう。
- 農場の出入口に踏込消毒槽等を設置することにより、出入りする人の靴底の消毒を徹底しましょう。
- 従業員の方も含め、口蹄疫が発生している国への渡航は可能な限り控えるとともに、これら国の農場からの郵便物等は衛生管理区域に持ち込まないようにしましょう。
- 農場を出入りした人・車両等に関する情報を台帳等に記録し、少なくとも1年間は保管しましょう。



鳥インフルエンザの侵入を防ぎましょう！

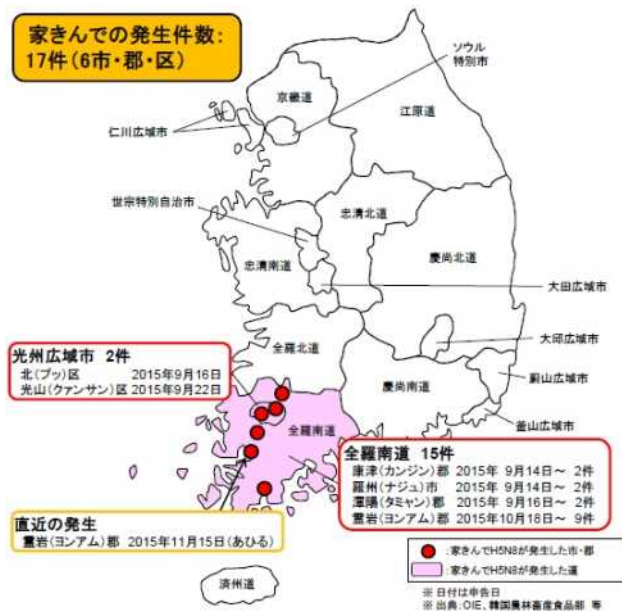
日本は、昨年4月に清浄国に復帰しましたが、隣国では依然として本病の続発が確認されていること、今シーズンも野鳥の糞便から鳥インフルエンザウイルスが検出されていることから、引き続き、野鳥、ネズミ等小動物の侵入防止対策に万全を期して頂きますようお願いいたします。

●韓国（右図 H5N8）

2015年9月以降、家きんでは17件の発生が報告されています。

家きん種別：あひる13件

あひると鶏の混合飼育4件



●台湾（左図）

2015年10月以降、家きんでは29件の発生が報告されています。

血清亜型別：H5N2 - 25件、H5N8 - 4件

効果的な消毒を実施しましょう！

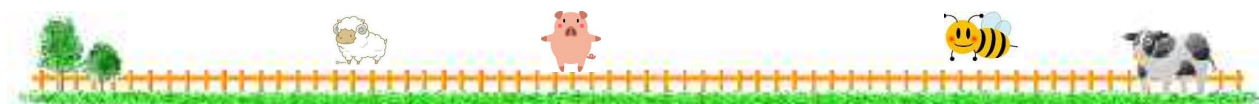
◎ 効果的な消毒のポイント

- ・ 踏込消毒槽の消毒液は、汚れで効果が薄れてしまうことから、まずは汚れを落としてから消毒すること。また、消毒薬が汚れていることに気づいたら、直ちに交換すること。
- ・ 農場に出入りする車両の消毒では、タイヤのみを消毒するのではなく、泥よけの内側部分や運転席の足元スペースも可能な限り消毒すること。

《要注意》

- ★ 消石灰と逆性石けんの組み合わせは効果的です(アルカリ性)。
- ★ 消毒効果が弱まるので、酸性とアルカリ性の消毒薬を同時に使用しないこと！

推奨される踏込消毒槽の設置方法





異常産ワクチンを接種する季節が近づいてきました！

牛に流行性異常産を引き起こすウイルスは、吸血昆虫（ヌカカ）によって媒介され、夏から秋にかけて流行します。主な病気としては、「アカバネ病」、「アイノウイルス感染症」、「チュウザン病」がありますが、これらは全てワクチン接種をすることで予防することができます。このため、ヌカカが飛び始める前にワクチン接種をして、発生を防ぎましょう。

● アカバネ病について

アカバネウイルス感染によるこの病気は、毎年のように日本各地で被害が発生しており、最も大きな問題となっています。本病は、妊娠中の母牛が感染することで流行初期から流産・早産・死産を引き起こし、体形異常や大脳欠損などの先天異常産子の原因となります。

また、本ウイルスは、育成牛や成牛に対しても起立不能や神経症状を起こし、死亡事例や廃用の原因にもなります。

アカバネ病の流行時期と症状



● ワクチンについて

異常産ウイルスのワクチネーション



3種混合不活化ワクチン（アカバネ、アイノ、チュウザン）とアカバネ病単味生ワクチンがあります。不活化ワクチンは、初年度に2回接種する必要がありますが、3種のウイルスによる異常産を防ぐことができますので、万が一の発生に備え、3種混合ワクチンを接種することをお勧めします。

島根県松江家畜保健衛生所

○本所（島根県東部農林振興センター松江家畜衛生部）

〒699-0109 松江市東出雲町錦浜 474-2

TEL (0852) 52-5230 公用携帯 080-1935-0883 FAX (0852) 52-3377

○隠岐支所（島根県隠岐支庁農林局家畜衛生部）

〒685-0015 隠岐郡隠岐の島町港町塩口 24

TEL (08512) 2-9690 公用携帯 080-1935-0886 FAX (08512) 2-9657